



平成30年2月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年10月10日

上場会社名 株式会社 柿安本店

上場取引所 東

コード番号 2294 URL <http://www.kakiyasuhonten.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 赤塚 義弘

TEL 0594-23-5500

四半期報告書提出予定日 平成29年10月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年2月期第2四半期の連結業績(平成29年3月1日～平成29年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年2月期第2四半期	21,294	1.4	1,050	15.2	1,080	15.9	683	42.9
29年2月期第2四半期	21,006	0.0	912	1.8	932	1.5	478	12.0

(注) 包括利益 30年2月期第2四半期 654百万円 (33.7%) 29年2月期第2四半期 489百万円 (8.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年2月期第2四半期	63.88	
29年2月期第2四半期	44.08	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年2月期第2四半期	18,547	13,577	73.2
29年2月期	17,997	13,404	74.5

(参考) 自己資本 30年2月期第2四半期 13,577百万円 29年2月期 13,404百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年2月期		0.00		45.00	45.00
30年2月期		0.00			
30年2月期(予想)				45.00	45.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年2月期の連結業績予想(平成29年3月1日～平成30年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	44,200	1.6	2,250	0.4	2,310	1.4	1,360	8.5	127.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年2月期2Q	12,446,700 株	29年2月期	12,446,700 株
期末自己株式数	30年2月期2Q	1,740,627 株	29年2月期	1,740,627 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年2月期2Q	10,706,073 株	29年2月期2Q	10,860,421 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、堅調な雇用・所得環境に支えられ、緩やかな回復基調にあり、個人消費にも底堅い動きがみられました。一方で、海外の政治情勢は依然として先行き不透明な状況が続いており、金融市場等への影響が懸念される中で、消費マインドが持続的な回復に至るには、未だ力強さを欠く状況で推移いたしました。

このような環境の中、当社グループは、変化するお客様ニーズへの対応を図るため、引き続き「肉」を訴求した商品の強化を行うとともに、健康志向の方に向けた商品を拡充する等、多様な商品展開に注力いたしました。

また、製販一貫体制を活かした効率的な運用の更なる強化を図るため、部門横断による改善を推し進めました。

出退店・改装につきましては、西武百貨店所沢店地下1階に出店いたしました「西武所沢柿安ダイニング」「西武所沢精肉店」の出店を含め計15店を出店するとともに1店の改装を行い事業の活性化を図りました。一方、9店を退店いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は21,294百万円（前年同期比1.4%増）、営業利益は1,050百万円（同15.2%増）、経常利益は1,080百万円（同15.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は683百万円（同42.9%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(a) 精肉事業

精肉事業につきましては、ご好評いただいている切り落とし等の日常使い商品を中心にアイテムの拡充を行い、幅広い品揃えから選択していただける売場作りに注力する等、精肉事業の活性化を図りました。

出退店につきましては、近鉄百貨店四日市店並びに西武百貨店所沢店の計2店を出店し、入店先施設の閉鎖に伴い1店を退店いたしました。

この結果、当事業の売上高は7,268百万円（前年同期比3.2%増）、セグメント利益は551百万円（同37.9%増）となりました。

(b) 惣菜事業

惣菜事業につきましては、『黒毛和牛 すき焼重』や『スペアリブBBQソース』を中心とした「肉」関連惣菜の販促をはじめ、継続して健康志向の方にもご満足いただける季節の旬の食材を取り入れた商品の展開に取り組む等、惣菜事業の活性化を図りました。

出退店につきましては、西武百貨店所沢店並びに近鉄百貨店生駒店には「柿安ダイニング」を出店し、近鉄百貨店奈良店には「柿安ダイニング」及び「柿安上海DELI」の合計4店を出店いたしました。一方、入店先施設の閉鎖等に伴い3店を退店いたしました。

この結果、当事業の売上高は6,482百万円（前年同期比3.5%増）、セグメント利益は657百万円（同7.1%増）となりました。

(c) 和菓子事業

和菓子事業につきましては、ご好評いただいている『バナナ大福』にキャラメルやミルク味を追加するとともに、どら焼では、『マスカットどら焼』『レモンどら焼』を追加する等、新しいフレーバーの商品を期間限定で投入することにより、和菓子事業の活性化に注力いたしました。

出退店につきましては、口福堂7店の出店、入店先施設の改装に伴う改装が1店、また、3店を退店いたしました。

この結果、当事業の売上高は3,581百万円（前年同期比0.5%増）、セグメント利益は284百万円（同14.7%減）となりました。

(d) レストラン事業

レストラン事業につきましては、夏期のビュッフェ業態の三尺三寸箸では、トマトフェアを開催し、『柿安特製ハンバーグ〜グリルトマト×トマトソース〜』を展開いたしました。また、グリル業態では、時期を同じくして、『肉の老舗・柿安の黒毛和牛ひつまぶし膳』等の旬の食材と「肉」を素材に使用した季節限定のメニューをご提供する等、レストラン事業の活性化を図りました。

出退店につきましては、イオンモール大高並びにイオンモール四日市北のフードコート内に、「柿安 Meat Express」計2店を出店し、一方で、1店を退店いたしました。

この結果、当事業の売上高は2,443百万円（前年同期比3.3%減）、セグメント利益は82百万円（同33.8%増）となりました。

(e) 食品事業

食品事業につきましては、『柿安茶漬 穴子山椒』『柿安茶漬 瀬戸内産ちりめんじゃこ』のお茶漬をはじめ、自家需要アイテムの拡充に注力いたしました。

この結果、当事業の売上高は1,517百万円（前年同期比5.8%減）、セグメント利益は143百万円（同12.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ549百万円増加し、18,547百万円となりました。

流動資産は635百万円増加し、10,745百万円となりました。主な要因は、売掛金の増加637百万円等であります。固定資産は85百万円減少し、7,802百万円となりました。主な要因は、建物及び構築物の減少35百万円と機械装置及び運搬具の減少27百万円等であります。

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ377百万円増加し、4,969百万円となりました。

流動負債は413百万円増加し、4,384百万円となりました。主な要因は、買掛金の増加286百万円と未払費用の増加100百万円等であります。固定負債は35百万円減少し、585百万円となりました。主な要因は、長期借入金の減少50百万円等であります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ172百万円増加し、13,577百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加202百万円等であります。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ40百万円増加（前連結会計年度末比0.7%増）し、当第2四半期連結会計期間末には6,051百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、得られた資金は883百万円（前年同四半期は394百万円の獲得）となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益1,065百万円に対し、非資金損益項目等の調整を加減した営業取引による収入1,230百万円等であり、支出の主な内訳は、法人税等の支払額346百万円等であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は281百万円（前年同四半期は542百万円の使用）となりました。収入の主な内訳は、定期預金の払戻による収入600百万円等であり、支出の主な内訳は、定期預金の預入による支出600百万円、有形固定資産の取得による支出204百万円等であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、使用した資金は561百万円（前年同四半期は943百万円の使用）となりました。支出の主な内訳は、配当金の支払額481百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成29年4月11日に発表いたしました「平成29年2月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」に記載しております予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,610	6,651
受取手形及び売掛金	2,571	3,209
商品及び製品	279	276
仕掛品	238	173
原材料及び貯蔵品	175	180
繰延税金資産	204	208
その他	29	45
流動資産合計	10,109	10,745
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,114	3,079
土地	2,261	2,261
その他（純額）	736	710
有形固定資産合計	6,112	6,050
無形固定資産		
	197	200
投資その他の資産		
投資有価証券	206	190
繰延税金資産	131	135
差入保証金	833	832
退職給付に係る資産	166	154
その他	239	238
投資その他の資産合計	1,578	1,551
固定資産合計	7,887	7,802
資産合計	17,997	18,547
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,235	1,521
未払金	455	481
未払法人税等	481	486
未払費用	938	1,039
賞与引当金	366	376
役員賞与引当金	34	17
その他	459	461
流動負債合計	3,970	4,384
固定負債		
長期借入金	75	25
資産除去債務	462	480
その他	84	80
固定負債合計	621	585
負債合計	4,592	4,969

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,074
利益剰余金	13,952	14,155
自己株式	△3,014	△3,014
株主資本合計	13,282	13,484
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19	8
退職給付に係る調整累計額	102	84
その他の包括利益累計額合計	122	92
純資産合計	13,404	13,577
負債純資産合計	17,997	18,547

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 （四半期連結損益計算書）
 （第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自平成28年3月1日 至平成28年8月31日）	当第2四半期連結累計期間 （自平成29年3月1日 至平成29年8月31日）
売上高	21,006	21,294
売上原価	10,931	10,841
売上総利益	10,075	10,452
販売費及び一般管理費	9,163	9,402
営業利益	912	1,050
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	1	1
工事負担金等受入額	5	—
受取補償金	—	18
その他	18	13
営業外収益合計	26	34
営業外費用		
支払利息	2	1
その他	3	3
営業外費用合計	6	4
経常利益	932	1,080
特別利益		
固定資産売却益	3	—
その他	0	—
特別利益合計	4	—
特別損失		
固定資産除売却損	7	13
減損損失	73	—
その他	6	1
特別損失合計	87	14
税金等調整前四半期純利益	849	1,065
法人税、住民税及び事業税	368	376
法人税等調整額	2	5
法人税等合計	370	381
四半期純利益	478	683
親会社株主に帰属する四半期純利益	478	683

（四半期連結包括利益計算書）
（第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日）	当第2四半期連結累計期間 （自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日）
四半期純利益	478	683
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△14	△11
退職給付に係る調整額	25	△18
その他の包括利益合計	10	△29
四半期包括利益	489	654
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	489	654

（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自平成28年3月1日 至平成28年8月31日）	当第2四半期連結累計期間 （自平成29年3月1日 至平成29年8月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	849	1,065
減価償却費	313	294
減損損失	73	—
賞与引当金の増減額（△は減少）	8	10
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	△22	△17
退職給付に係る資産の増減額（△は増加）	△41	12
受取利息及び受取配当金	△2	△2
支払利息	2	1
有形固定資産除却損	7	13
有形固定資産売却損益（△は益）	△3	—
売上債権の増減額（△は増加）	△510	△636
たな卸資産の増減額（△は増加）	△308	62
仕入債務の増減額（△は減少）	360	286
未払金の増減額（△は減少）	△52	47
未払消費税等の増減額（△は減少）	△88	30
その他	123	60
小計	708	1,230
利息及び配当金の受取額	2	1
利息の支払額	△2	△1
法人税等の支払額	△314	△346
営業活動によるキャッシュ・フロー	394	883
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△600	△600
定期預金の払戻による収入	600	600
有形固定資産の取得による支出	△470	△204
有形固定資産の売却による収入	15	—
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
差入保証金の差入による支出	△5	△27
差入保証金の回収による収入	2	2
その他	△84	△51
投資活動によるキャッシュ・フロー	△542	△281
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△75	△75
自己株式の取得による支出	△372	—
配当金の支払額	△490	△481
その他	△5	△4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△943	△561
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△1,092	40
現金及び現金同等物の期首残高	5,720	6,010
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,628	6,051

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（追加情報）

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日至平成28年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	7,043	6,263	3,562	2,526	1,610	21,006	—	21,006	—	21,006
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	612	12	37	27	138	828	—	828	△828	—
計	7,655	6,276	3,599	2,554	1,749	21,835	—	21,835	△828	21,006
セグメント利益	399	613	333	61	127	1,535	—	1,535	△623	912

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等でありま
す。

2. セグメント利益の調整額△623百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△641百
万円及びその他調整額17百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属し
ない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「レストラン事業」において、店舗設備の減損損失を73百万円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において、73百万円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自平成29年3月1日至平成29年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	7,268	6,482	3,581	2,443	1,517	21,294	—	21,294	—	21,294
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	571	10	34	14	148	780	—	780	△780	—
計	7,840	6,493	3,616	2,458	1,665	22,074	—	22,074	△780	21,294
セグメント利益	551	657	284	82	143	1,719	—	1,719	△668	1,050

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等でありま
す。

2. セグメント利益の調整額△668百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△687百
万円及びその他調整額18百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属し
ない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。